

# 南京政府問題

## 第一 成立経緯

一 汪兆銘、重慶脱走

昭和十三年十月武漢三鎮陥落シ、戦局一大段階ニ到着スルヤ日本ハ大乗的  
事変解決條件タル所謂近衛三原則別紙第一ノ聲明ヲ発表セリ

汪兆銘ハ右條件ヲ以テ日支和平ノ解決ヲナスヘシトナシタルモ重慶ノ空襲

俄カニ勦カサルヲ看取シ、十二月同地ヲ脱走シテ、河内ニ到リ停戦和平声

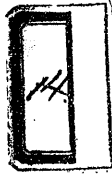
明ヲ発シ同志ノ之ニ続行スルヲ糾合シ、徐々ニ大勢ヲ轉換ヲ期待セリ、当時日本

側ノ連絡者ニ対シ語ルニ支那ノ事ハ支那側ニ於テ処理スヘク、表裏共ニ日本側ノ援

助ヲ必要トセサルニ旨ヲ以テセリ

二 和平解決ノ努力

汪兆銘、河内滞在約半歳大勢急轉回シ難キヲ觀テ上海ニ移リ日支



有志ノ間ニ日支双方ノ真意並和平解決ニ関シ檢討スル所アリ 十四年初夏汪亦自ラ上京シ和平問題ニ関シ私カニ日本側ノ真意ヲ確カメ 且援助ヲ要請スル所アリ

當時我ハ重慶内外ノ要人合作シテ速ニ時局ヲ收拾スルコトヲ希望シ新政府ノ問題ハ支那側ノ問題トシ之ニ干渉スルコトヲ避クルヲ以テ方針トナシ 近衛三原則ニ準據スル和平解決ニ回調スルモノハ援助ヲ吝マサルノ態度ヲ持シタリ 近衛三原則ニ関スル具體的檢討又逐次進捗シ十四年暮ニハ其ノ假案ヲ得ルニ至レリ(本案ハ日華基本條約ノ前身ナリ)

三、南京政府成立及承認

十五年一月青島ニ於テ支那側内政問題トシテ汪兆銘、王克敏、梁鴻志ノ三巨頭会谈行ハル日本側ハ当時ノ治安上警備ヲ担任セルヲ会谈ニ列席セズ 日本側ノ態度ハ板垣總參謀長談話(別紙第三)ニ明カナル如シ 三月三十日南京政府成立ス其ノ理想トスル所ハ重慶側ト汪兆銘側トノ合流合作ニ依リ事變解決乃至停戦ノ契機タレカント謂フニ在リ

0953

従来日支調整原則ノ検討内容ハ支那側ヲ通シ 重慶ニ到達シ  
アルヲ豫想シツツアリ 右政府自体亦國民政府ト稱シ 南京還都トナ  
シ青天白日旗ヲ採用セリ 汪重慶トノ合作成ラヌ 若シ重慶自ラ事變  
解決ニ乗出スノ意志アラハ汪ハ善ンテ野ニ退キ重慶ニ讓ル旨既ニ久  
シク汪自ラ残ス所アリ 然レトモ大勢ハ未タ動クニ至ラス  
汪兆銘側ノ單獨政府ノ成立トナリタリ  
政府成立後ト雖 重慶トノ合流合作ヲ期待スル所アリシカ 情勢進展セ  
ス 十月 日華基本條約ノ調印トナリ 之ニ依リ政府ヲ正式承認セシコト  
トナル  
爾後南京政府カ實カヲ養ヒ 善政ヲ施シ民生ノ安定ニ努カシ 逐次重慶  
ト合流スルコトニ期待セリ

## 第二、日華基本條約及日滿華共同宣言

全文別紙第三ノ如クニシテ 公用秘密ノ兩部分ヨリ 成ル由來ハ 御前會

0954

議日支新關係調整方針ニ根源シ其ノ根幹カ近衛三原則ノ聲明  
トナリ 次テ日支新關係調整ニ關スル協約トナリ 之カ條約文化  
セラレタルモノナリ 而シテ本條約ノ根本精神ハ過去一切ノ經緯  
ヲ清算シ東亞恒久平和ノ基礎トシテ新ニ日滿支三國ノ道義的且  
合理的結合ヲ建設セントスルニ在リ 歷史上ニ存在スル戰爭代償ノ  
打算的獲得トハ全然其ノ趣ヲ異ニス

内容ノ根幹ハ日滿支ハ道義ヲ以テ一致ノ本源トナシ善隣トシテ其ノ主  
權領土ヲ尊重シ文化ヲ交流シ互惠平等ノ立場ヨリ國防及經濟上共  
通ノ必要ニ基キ北支及蒙疆ニ於ケル戰略地位ノ向上並埋藏資源ノ開發  
上海附近ニ於ケル經濟提携 南支沿岸ニ於ケル海上連絡是ナリ  
其他ノ雜件介在シアルハ成立過程ニ於ケル夾雜物ニシテ未節ナリ又第三  
國ノ在支權益ハ旧狀復活ヲ認メテ了リ何等之ヲ不當ニ排除制限セシ  
トスルモノニ非ス